

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成28年 春 第47号

3月26日は
パープル・デー

パープル・デーとは、てんかんについて理解を深めてもらうための国際的なイベントです。当日は紫色の物を身につけて過ごします。

あかり

A K A R I

- 「てんかん診療拠点機関」に指定されました ——— 1
- 八木和一名誉院長が「瑞宝中綬章」を受章されました 2
- 「包括的てんかん外科 初診外来」ははじめました ——— 3
- 成人式/『打倒花粉!』 ——— 4
- 静岡市認知症患者医療センター専門職研修会が行われました 5
- 海外からの研修医/パープル・デー イベント情報 — 6
- 外来再診の診療体制/医療連携室 ——— 7
- はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本 8

「てんかん診療拠点機関」に指定されました

国は都道府県単位で「てんかん地域診療連携体制整備事業」に取り組むことになり、平成27年度には全国で8カ所のてんかん診療拠点機関が指定され、静岡県では当院が担当することになりました。

この事業は、てんかん診療に関する医療機関相互の連携体制(ネットワーク)を強化するほか、患者さんと家族に対する相談支援や、てんかんに関する正しい知識の普及啓発を行うことを目的としており、拠点機関は、有識者等で構成されるてんかん医療連携協議会において策定された事業計画や提言等を踏まえ、この目的を達成するための業務を行います。

具体的には、以下の業務を行います



1

相談事業

(一般の人、患者さん・家族、医療機関等対象)

- 専用電話回線およびメール(てんかんホットライン)による相談

■電話番号 …… 054-246-4618

■対応曜日 …… 毎日(土日祝日、年末年始含む)

■対応時間 …… 9:00 ~ 22:00

■メール …… support@shizuokamind.org

epilepsy.hotline@gmail.com

2

治療体制の整備

(医療機関の連携)

- てんかんの初診および入院への対応
- 連携のためのツールの整備・病気の自己管理を支援

- 症例検討会の開催
- ホームページで診療に役立つ資料を提供(<http://epilepsy-info.jp>)
- 連携のためのネットワーク研究会の開催

3

研修事業

(医療関連職、福祉・教育職、その他)

- 医師向け研修事業を年に複数回開催
- 医師以外の医療専門職のための研修事業を年に複数回開催
- 福祉・教育等専門職のための研修事業を年に複数回開催

4

一般啓発

(患者さん・家族を含む)

- 市民公開講座を年に複数回開催

- 国内外のてんかん啓発活動に連動した事業を開催
- ホームページでてんかんに関する情報を提供(<http://epilepsy-info.jp>)
- てんかんホットラインで相談に対応

5

その他の活動

- 連携協議会の運営、関係機関との連携・調整、調査、統計など

当院は、てんかん診療拠点機関としての上記の役割を誠実に実行いたします。皆様のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

(院長 井上 有史)

八木和一名誉院長が「瑞宝中綬章」を受章されました

八木和一名誉院長は、昭和51年から平成15年まで当院に勤務され、臨床研究部の初代部長、副院長、院長として病院の運営や研究環境の整備に尽力されました。この間、患者さんの診療や研究活動はもとより、日本てんかん学会の理事長(8年間)、国際抗てんかん連盟の委員などを歴任され、国内外のてんかん活動の主導的な立場にありました。また、患者さん支援の活動にも積極的に関与され、日本てんかん協会から木村太郎賞を授与されています。

長い時間をかけて特に熱心に取り組まれた

のが、てんかんのリハビリテーションで、作業療法士や心理士などのリハビリテーションに関わるスタッフとともに、てんかんのある人の社会的処遇の改善に向けて研究を重ね、日本ではじめててんかんの包括医療を実践されました。八木先生の業績はてんかんのある人の医療福祉政策に活かされています。

これらの多くの業績に対し、平成27年11月に瑞宝中綬章が授与されました。八木先生は、リハビリテーションスタッフ全員での受章です、と語っています。

こころより、お祝い申し上げます。

院長 井上 有史

看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り

②非常勤職員(外来、通所事業、病棟)

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様に関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか? 相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@shizuokamind.org

「包括的てんかん外科 初診外来」はじめました

長い経験と国内最多の実績に基づいた丁寧なてんかん外科治療をわかりやすくお届けするために、「包括的てんかん外科 初診外来」を設置します。

近年ではてんかん外科が普及し、多くの施設にててんかんの外科的治療がなされるようになってきました。もちろん当院でも外科的治療を行っておりますが、その歴史は非常に古く、1983年から継続的に行っており、これまでに1300人以上の患者様が当院で手術を受けておられます。てんかん外科には発作の完全な抑制を目標とした根治手術と、発作の回数や程度を軽減させることを目的とした緩和的手術がありますが、当院における手術のほとんどは根治的手術です。手術を受けた患者様の年齢は1歳台から60歳台まで幅広く、近年は特に小児の手術が多くなってきております。

当院にはてんかん専門医が多く、てんかん初診外来は特定の患者様に限定せず毎日7つの枠を設けています。しかしこのため逆に、てんかん外科をご希望の患者様が「どの先生の初診外来を受診すればよいのかわかりにくい」との声が聴かれておりました。このご要望を汲んで、今回、外科的治療をご希望の患者様のために「包括的てんかん外科 初診外来」を開設することになりました。

てんかんの外科的治療は脳外科医だけではできません。外科的治療を行うためには、てんかん診療を専門とする小児科医、神経内科医、精神科医などが協力して術前・術後に患者様の検査・薬物治療を行う必要があります。しかし、それだけではありません。当院の理念にもありますように、てんかん診療には「包括医療」が必要です。「包括」といいますのは、医師だけではなく、看護師、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカーなど多くの職種が協力して患者様の医療を行うということです。つまり、てんかん診療では発作の抑制に加え、患者様の生活を阻害している様々な

問題(例えば就労・進学の問題、精神的な問題、経済的な問題など)に対する配慮・ケアも必要です。今回の「包括的」てんかん外科初診外来もこの包括医療の一環です。初診時より多職種が手術前から手術後まで丁寧にサポートする体制をとるようにいたしました。ただ手術をするだけではなく、術後のよりよい生活を追及することが目標です。このため、診察の後にてんかん外科に十分な知識を持った看護師が病棟の案内、検査の案内を含め、外科看護やリハビリを含めた生活面などについてお話しをさせていただき、さらにはソーシャルワーカーも医療費や医療支援などについて必要に応じてお話しさせていただきます。

「包括医療」という観点から、「外科外来」ではありませんが、神経内科医である寺田が初診医として対応をさせていただくこととなりました。私は当院に10年以上前より勤務し、その間ずっと脳神経外科病棟で脳外科医のサポートに徹してきたため、(直接メスは握りませんが)多くの手術を経験してきております。当外来では、この脳外科医に近い視点から、なおかつ脳外科医とは別の視点から、より包括的な立場で患者様を診察させていただこうと考えております。

外科的治療を積極的にご希望の患者様以外にも、外科的治療を勧められたが不安がある、外科的治療に興味がある、他の病院で外科的治療はできないといわれたけどあきらめきれない、などの場合でも受診いただいて結構です。受診は予約制となっておりますので、受診ご希望の患者様は当院の医療連携室にご連絡下さい。なお、現在当院に通院中の患者様で外科的治療をご希望の場合には、当外来を受診することはせず、現在の主治医にご相談下さい。

(神経内科医長 寺田 清人)



平成28年1月15日、療育棟集団指導室にて、療養介護事業(入所)の利用者様1名と、生活介護事業(通所)の利用者様1名の、成人式が厳粛な雰囲気の中執り行われました。

成人式は、20歳という人生の節目を迎えた利用者様を病院全体でお祝いしようと、行事の1つとして行っています。

当日は、スーツや袴を着られた利用者様が、来賓の皆様や列席の皆様からの盛大な拍手の中、入場されました。

式ではまず、幼少期からの写真をスライドで振り返りました。利用者様方の写真に、参列された皆様は、ときおり笑顔になりながら感慨深そうに見入っていました。

次に当院院長より式辞を贈らせていただき、引き続き、中央特別支援学校学校長、親の会の代表幹事様より祝辞をいただきました。その後、当院の事務部長より記念品を、看護部長より花束を利用者様一人ひとりに贈呈し、お祝いの言葉を贈らせていただきました。そして、利用者様の言葉として、ご家族やスタッフから「病棟の患者さんとこれからも楽しく過ごしていきます」「ちょっと緊張していますが、うまくいってよかったです」と今後の抱負等をお話されました。利用者様方はいつもとは違った雰囲気で緊張している様子でしたが、その厳かな雰囲気をしっかりと感じているようでもありました。

最後に、式歌の「野に咲く花のように」を全員で歌い、お二人をお祝いしました。

我々病院スタッフ一同、お二人の前途に幸多きことをお祈り申し上げます。

(療育指導室 土屋 早紀)



『打倒花粉!』

栄養管理室 山田 志帆

今年も花粉シーズンがやってきました。花粉に悩まされる方も多いのではないのでしょうか。

花粉のメカニズムは…

- ① 花粉が体内に侵入すると、それを排除しようとIgE抗体という物質が作られて、再度体内に侵入されないようにします。
- ② そのIgE抗体は鼻や目の粘膜にある肥満細胞と結合して、再度侵入してきた花粉に反応します。
- ③ その結果、肥満細胞から化学物質(ヒスタミン)などが分泌され、花粉を体外に放り出そうとするためにくしゃみや鼻水、涙が出るなどの症状が出る

というわけです。

花粉症は、心身ともにバランスを崩した時に発症、悪化するため、身体を休めたり、体力をつけて免疫力を向上させることも大切です。

花粉症の症状を和らげる食品として諸説ありますが、ハーブティーやヨーグルトが効果的と言われています。皆さんも試してみてくださいはいかがでしょう？



静岡市認知症疾患医療センター専門職研修会が行われました

経営企画室長 加藤 肇

平成28年2月7日(日)にグランシップにて「静岡市認知症疾患医療センター専門職研修会」が行われました。「認知症の周辺症状(BPSD)について」をテーマに医療及び介護従事者の方145名の参加者がありました。休日にもかかわらず多くの方にご参加いただきました。

講義内容は、小尾智一センター長による①「BPSDの薬物療法」、春名令子副作業療法士長による②「認知症の予防体操」、星城大学リハビリテーション学部教授の竹田徳則先生による③「BPSDの対応について」、の講義3題が約2時間半にわたって行われました。参加者は、メモをと



るなど熱心に聴講され、積極的に体操に取り組んでおられる姿



が見受けられました。

ご協力いただいたアンケート結果に「BPSDの治療薬について、具体的な解説で分かりやすかった」「BPSDの行動障害には、必ず原因があることを知った」「BPSDは、必ずよくなると信じることの大切さが分かった」など、BPSDに対する医療・介護従事者の方の関心の高さが窺えました。

「また、このような研修会を開いて欲しい」とのお声も頂き、今後も皆様のご期待に出来るだけ応えられる研修会を企画していきます。

ハーブティー

リラックス効果や抗炎症作用があると言われています。

★ハーブティーの入れ方

●ハーブ約3g ●熱湯約180cc

ティーポットと、カップは温めておきます。ハーブをポットに入れます。そして一度沸騰させてから一呼吸置いた熱湯を注ぎ、香りを逃がさないように素早くふたをして3～5分おきます。茶こしでこしながらカップに注ぎます。



カスピ海ヨーグルト

症状に関与するIgEの血中レベルを下げるという研究結果が発表されています。一般のヨーグルトとは異なり、カスピ海ヨーグルトの乳酸菌は常温で発酵するため、家庭でも簡単に作ることが出来るのが特徴的です。

★カスピ海ヨーグルトの作り方

市販の粉末種菌と牛乳をまぜ合わせ、夏なら12～48時間、冬なら24～72時間常温発酵させて、とろっと固まれば完成です。このヨーグルトは種として牛乳に植え継ぎができます。



海外からの研修医

タイ国 神経外科医師 プリッサナ・パンニャワイ

私はタイのラマティボディ病院から来ました、神経外科医のプリッサナ・パンニャワイです。私はてんかん手術に興味がありますが、この分野は、タイではまだまだ研究が進んでおらず、手術もあまり行われていません。現在、タイにはてんかん専門の神経外科医がとても少なく、多くの患者がてんかんとその機能障害に苦しんでいます。多くの患者が、てんかん治療の十分な知識と技術を持たない医師による治療を受けています。その上、設備や物資も十分ではなく、必要な検査と処置をすることができません。

タイには現在、てんかん手術の訓練・研究計画やそのための施設がありません。そのため、私は海外で学ばなければなりません。

私がこの静岡てんかん神経医療センターを選んだのは、同僚のてんかん神経外科医がここで研修をさせていただいたからです。彼は、ここで印象深い、多くの経験と知識を得たことから、私にここに来るように勧めました。

幸いにも私は、静岡てんかん神経医療センターに受け入れてもらえることになりました。私に学ぶチャンスを与えてくださったことにとても感謝しており、スタッフのみなさんにありがとうございます。

ここでの研修は私にとって大変貴重な時間になると思っています。私は、慎重で丁寧な手術前後のプロセス、すぐ

れた手術の技術、更には脳波記録法について多くの知識を学んでいます。スタッフみなさんは暖かく私を迎えてくださり、とても親切です。みなさんととても辛抱強く私に教えてくださいます。言語の問題はあるにもかかわらず、先生方や看護師さんたちが常に私をフォローし、伝えたいという気持ちを持って接しててくださいます。

みなさんの気持ちに私は感銘を受けています。ほんとうにありがとうございます。

私は病院の宿泊設備に住まわせてもらっていますが、とても安全で快適です。ここに住まわせていただいていることにもとても感謝しています。

タイで、てんかん治療に長けた神経外科医になることが私の最終目標です。こちらでの研修を終えたのち、タイの人々に貢献するために国へ戻ります。近い将来、ここで学んだ知識を、タイでてんかんを患う多くの患者さんの役立てたいと思います。ここで得た知識と経験を、手術の技術はもちろん、治療全般をより高いレベルに引き上げることができるよう願っています。

最後に、いつも私にアドバイスし、サポートをしてくださる先生方、看護師さん、田中さん、研修医仲間、そして私の家族に厚くお礼を申し上げたいと思います。



パープル・デー イベント情報

静岡市立
中央図書館

2月25日(木)
3月末頃

- てんかんに関する書籍を集めたコーナーを設置します。

静岡市庁舎の
ライトアップ

3月18日(金)
26日(土) 夕刻

青葉イベント広場

3月19日(土)
10:00~15:00

- 「心のバリアフリーイベント」に参加し、てんかんに関する展示・相談を行います。

静岡てんかん・
神経医療センター内

3月25日(金)

- 14:15～ 静岡東高校生吹奏楽部によるコンサート
- ホスピタルクラウンパフォーマンスショー
- てんかんに関する相談 ●パープル・デーに関する展示

青葉イベント広場

3月26日(土)

- パープル・デーに関する展示
- てんかんに関する相談
- 静岡けやきライオンズクラブのご厚意により、紫色の花をつけるラベンダーの苗木を無料配布します

外 来 再 診 の 診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山 崎	廣 澤	山 崎	白 井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今 井		井 上		近 藤
第4診察室		鳥 取	日 吉		日 吉
第5診察室	池 田仁	池 田浩	池 田浩	寺 田清	寺 田清
第6診察室	芳 村			芳 村	松 平
第7診察室		表			山 口
第8診察室		西 田	高 橋		
第9診察室	重 松			大 谷	大 谷

神 経 内 科

	月	火	水	木	金
第10診察室	午前				
	寺田達				
	午後				
	小尾	小尾	小尾		小尾
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		馬場國 尾内(第4)

特 殊 外 来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	寺田達・小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	寺田清

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。
上記、医療連携室にお問い合わせください。

広 報 誌 編 集 委 員 会

編 集 人 ■

寺田 清人	高嶋 春美	鈴木 淑夫
矢嶋 隆宏	佐倉 裕二	傍島 隆
中神 基充	堀田 真子	高橋 輝
春名 令子		

発 行 ■ 平成 28 年 3 月 14 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からかわいい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

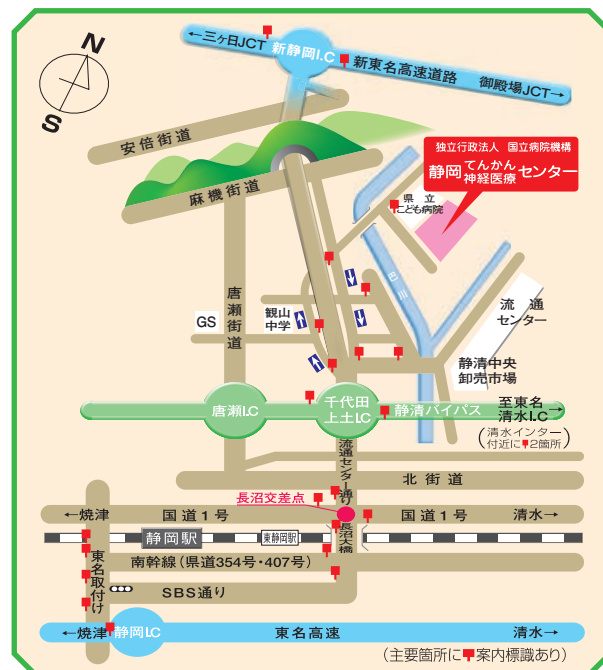
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスを ご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
東京 方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。
	● 御殿場JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
お車の場合	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。
	● 三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋 方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。
	● 三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



BOOK

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第5版)

【日本てんかん協会、2014年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q&A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●稀少難治てんかん診療マニュアル ～疾患の特徴と診断のポイント～

【診断と治療社、2014年】

稀少難治てんかんの特徴と診断のポイントから、検査、治療、予後まですぐに概要をつかめるよう約3～4ページにポイントを絞った。発作時の脳波図、発作の鑑別フローチャート、鑑別疾患を比較した表をレイアウトし、視覚的に分かりやすく稀少難治てんかんを解説した。診断、治療のマニュアルの項目の冒頭には短く「ポイント」をまとめた。稀少難治てんかんにかかわる小児科医、神経内科医、脳神経外科医などに役立つ書。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●てんかん専門医ガイドブック

～てんかんにかかわる医師のための基本知識～

【診断と治療社、2014年】

てんかん専門医試験を受験する医師のみならず、てんかんにかかわるすべての医師必携のガイドブック。概念や分類、病因、診断、検査、治療などの総論から、新生児から高齢者まで各年代別の重要なてんかんや遺伝子研究結果に基づく特殊てんかんの最新知識、外科治療などを解説した各論に続き、妊娠、運転、生活支援についても具体的に紹介。臨床てんかん学の内容をコンパクトにまとめた実践的な一冊。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)